

◎注意事項をよくお読み下さい



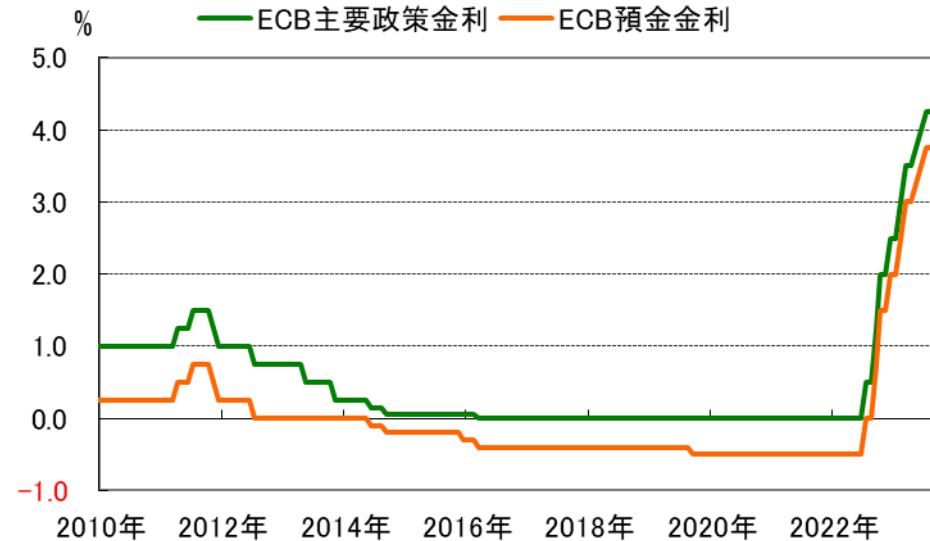
# りそな 経済フラッシュ

## (ECB <欧州中央銀行> 理事会)

### 〇概況

- ◆ ECBは9/14の理事会で10会合連続での利上げを決定。預金ファシリティ金利は1999年の単一通貨EUR導入後で最高水準となった。
  - ◆ ラガルド総裁は記者会見にて金利がピークに達したか、また金利が高水準に留まる期間については明言しなかった。
  - ◆ 市場では利上げ打ち止めとの見方と景気後退懸念が高まり、発表後に欧州金利は低下し、EURは下落した。
- ✓ 9月14日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では10会合連続での利上げを決定し、預金ファシリティ金利を4.00%、主要政策金利を4.50%、中銀貸出金利を4.75%へそれぞれ引き上げた。利上げ幅は前回に引き続き0.25%とした。
  - ✓ 四半期に一度の経済・物価見通しの更新があり、成長率予想を全体的に大幅に引き下げた一方、2023年・2024年の物価見通しを引き上げた。2025年の物価見通しは小幅に引き下げた。
  - ✓ ユーロ圏経済は既に景気減速が鮮明であり、7-9月期はマイナス成長に陥る可能性もある。今回の理事会では経済動向の見極めのために政策金利を据え置くとの見方もあったが、結果はインフレ抑制を優先し、利上げを継続した。ユーロ圏のインフレ率は昨年からのピークから半減しているが、依然としてECBの目標である、前年比+2.0%までには距離がある。
  - ✓ ラガルド総裁は記者会見にて、今回の決定は全会一致ではなく、数人は利上げ休止を支持したことを明かした。一方、今回の利上げで政策金利がピークに達したかどうか、また金利を高水準に維持する期間については明言しなかった。
  - ✓ ECBの利上げ幅はマイナス金利を解除した2022年7月からの累計で4.5%に達し、利上げペースは過去最速。預金ファシリティ金利は1999年の単一通貨EURの導入後で過去最高となった。ユーロ圏は既に景気減速に直面しており、今回の理事会では利上げ見送りを予想する声もあった。結果的にはインフレ抑制を優先して利上げを継続したが、市場では利上げ終了との見方と景気後退懸念の高まりによりEURは下落し、欧州金利は全般的に低下となった。ラガルド総裁は追加の利上げに含みを持たせたが、今回の利上げが最後となる可能性は高く、今後は景気動向の見極めの時間帯となろう。EURは軟調に推移しやすい。

### 【ECB政策金利と預金金利】



### 【ECBスタッフ見通し（9月時点）】

	2023年	2024年	2025年
<b>実質GDP成長率</b>	<b>+0.7</b>	<b>+1.0</b>	<b>+1.5</b>
6月時点の見通し	+0.9	+1.5	+1.6
<b>HICP(消費者物価)</b>	<b>+5.6</b>	<b>+3.2</b>	<b>+2.1</b>
6月時点の見通し	+5.4	+3.0	+2.2

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項

本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。